

兵庫県

障害者生涯学習アンケート

集計結果のご紹介

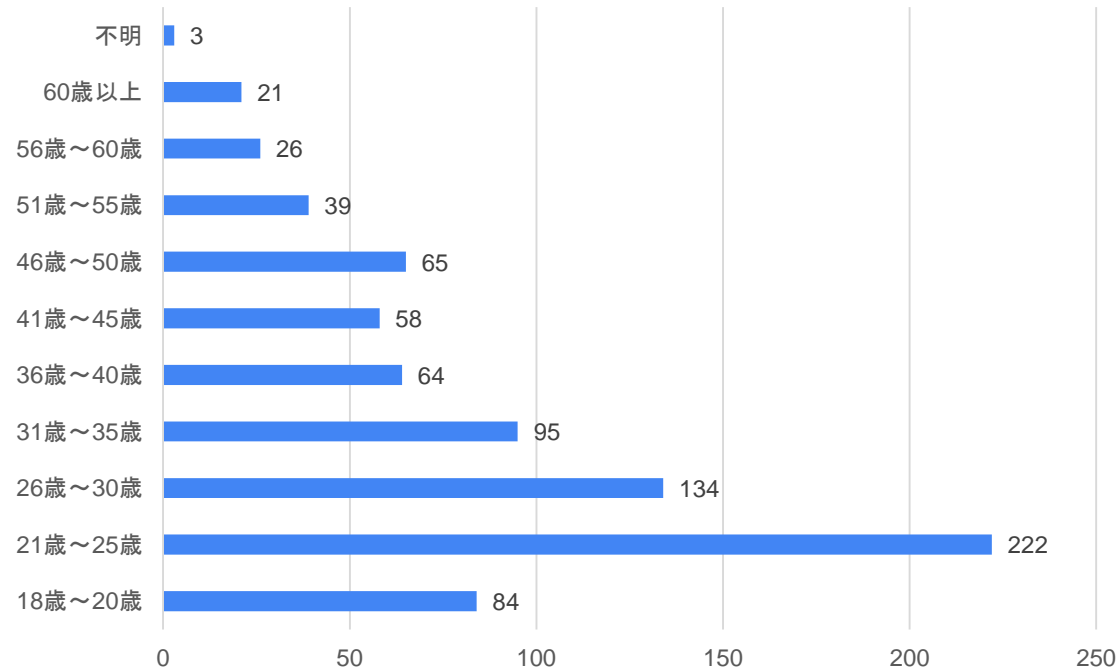
2021年10月

調査の概要

- 療育手帳所持者を主たる対象とした調査とした。
- 2021年9月にGoogle Formsを用いて実施。
- 質問票は、ワーキンググループで原案を作成し、コンソーシアムで決定した。
- 回答の呼びかけは、コンソーシアムメンバーからの依頼、新聞での呼びかけによって行なった。
- 兵庫県外からの回答もあったが、無効回答とした。
- 有効回答数は811件であった。
- 本人だけで回答したものは350件、支援を受けながら本人が回答したものは142件、保護者や支援者が回答したものは312件であった。

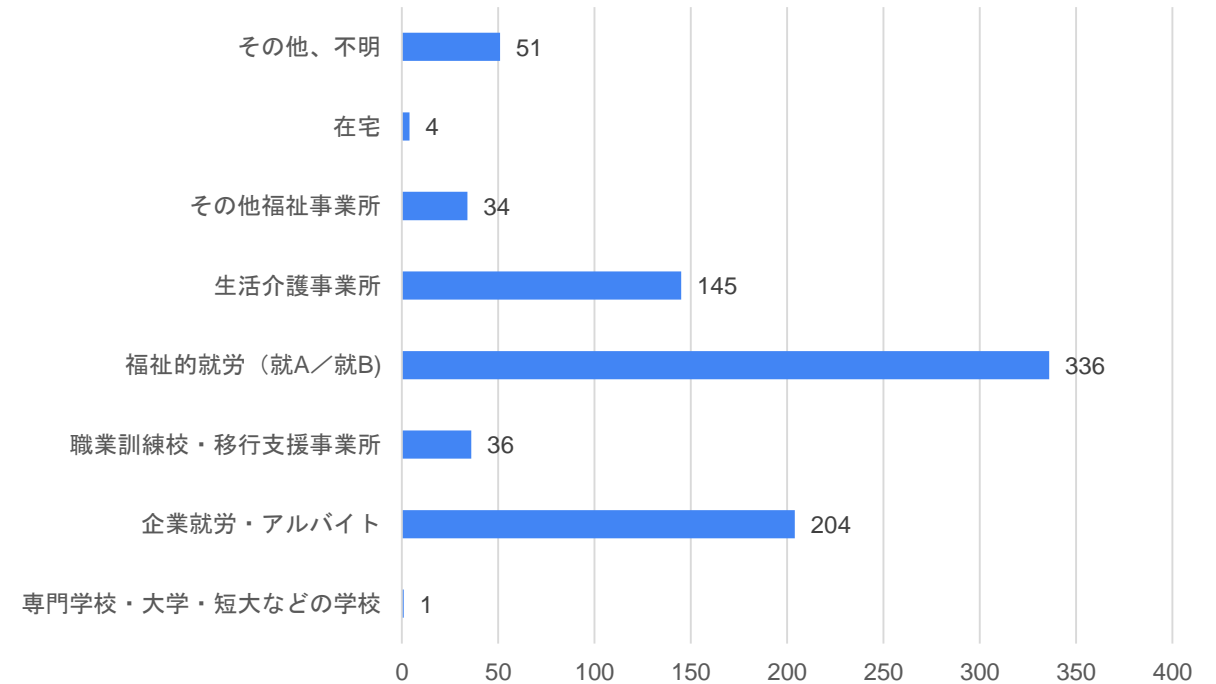
回答者の属性 1

回答者の年齢層



若年層に偏ったサンプルであった。

回答者の職場等

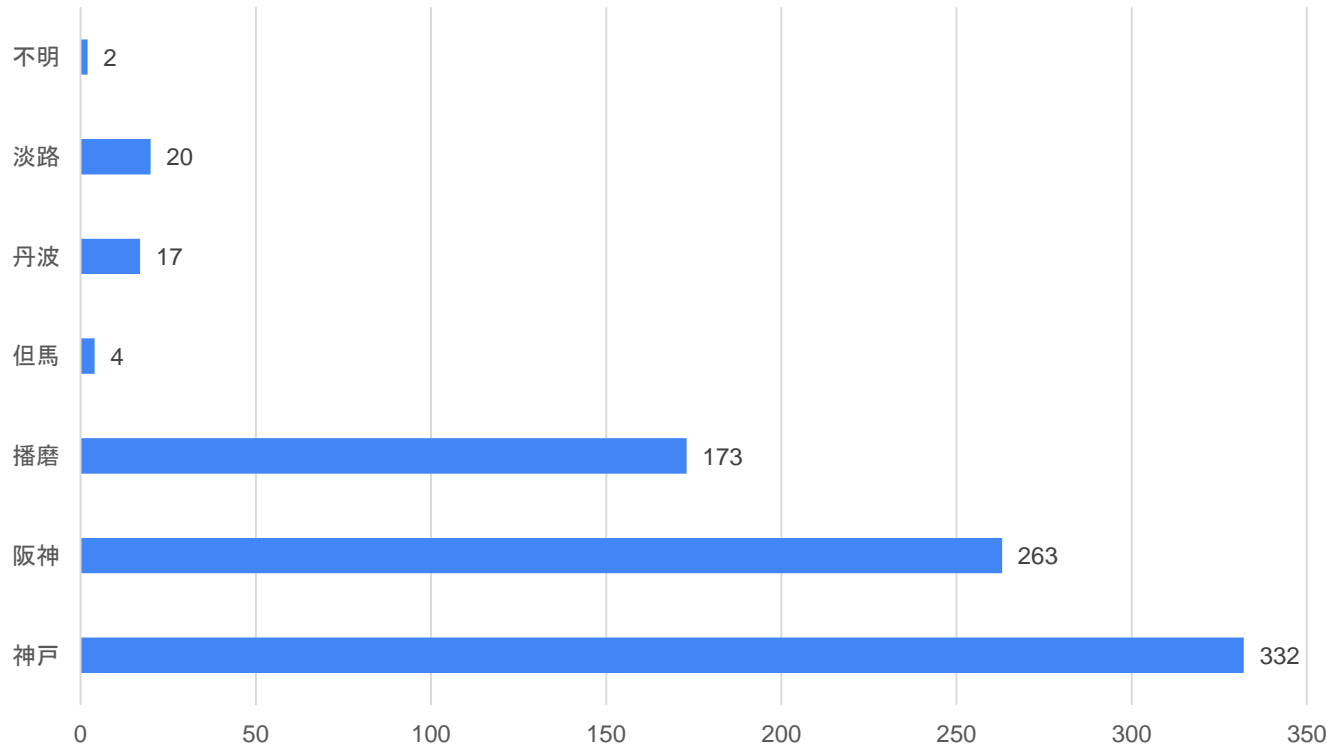


就労支援施設通所者、生活介護事業所が半分以上を占め、企業就労・アルバイトは1/4を占めた。

回答者の属性2

有効回答数 811

回答者の居住地

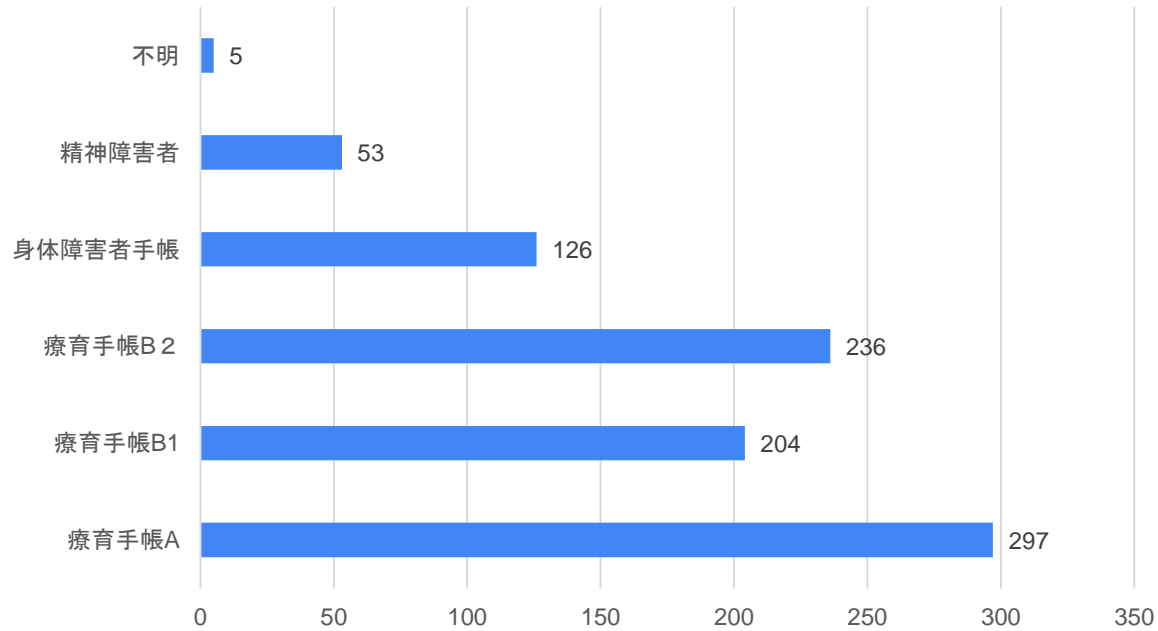


神戸	332	洲本	10
三田	75	南あわじ	7
加古川	54	芦屋	6
明石	49	三木	6
西宮	48	丹波篠山	6
川辺郡	44	神埼郡	4
川西	38	赤穂	4
姫路	25	淡路	3
尼崎	20	美方郡	3
宝塚	19	加西	3
伊丹	13	加東	2
加古郡	13	小野	1
丹波	11	豊岡	1
高砂	11	不明	2

神戸・阪神で3/4を占める、都市部に偏ったサンプルであった。

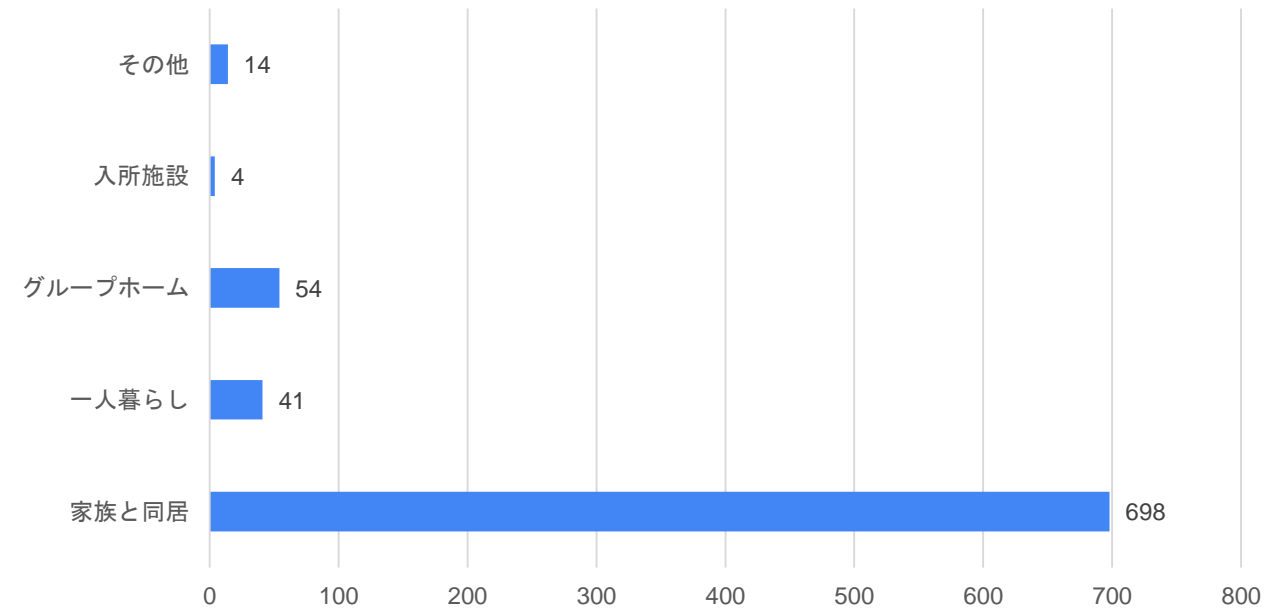
回答者の属性3

回答者の障害



重複障害者が110名おり、また視覚障害者12名、聴覚障害者16名であった。

回答者の生活状況

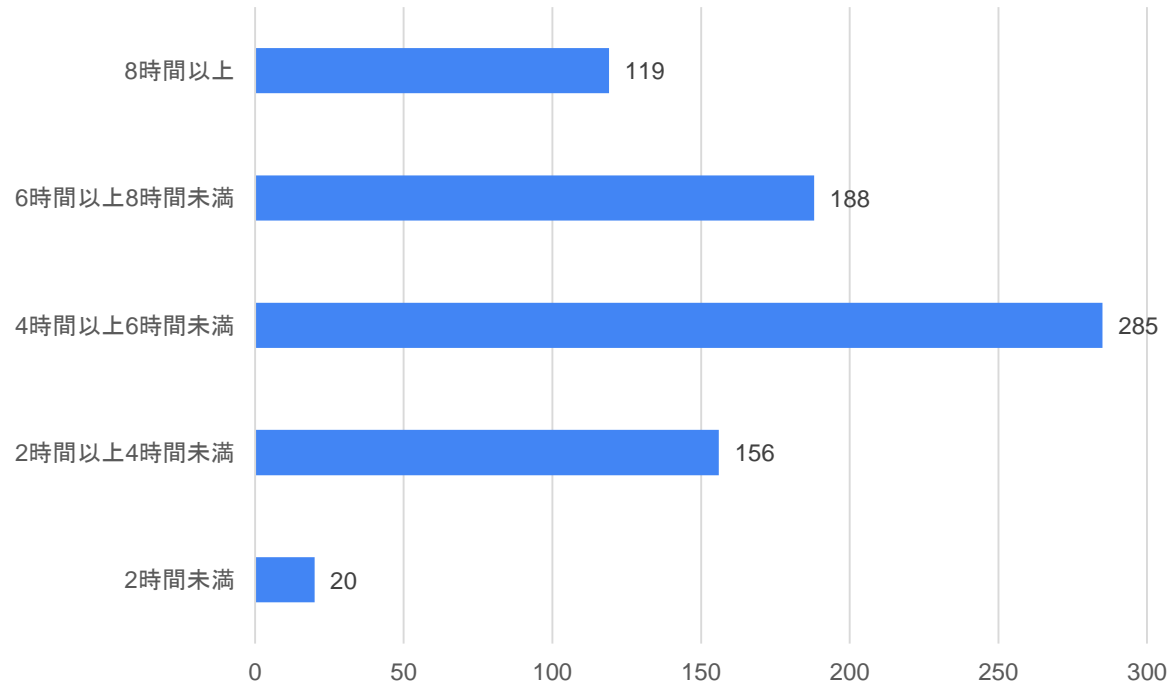


家族と同居している回答者が圧倒的多数であった。

自由時間1

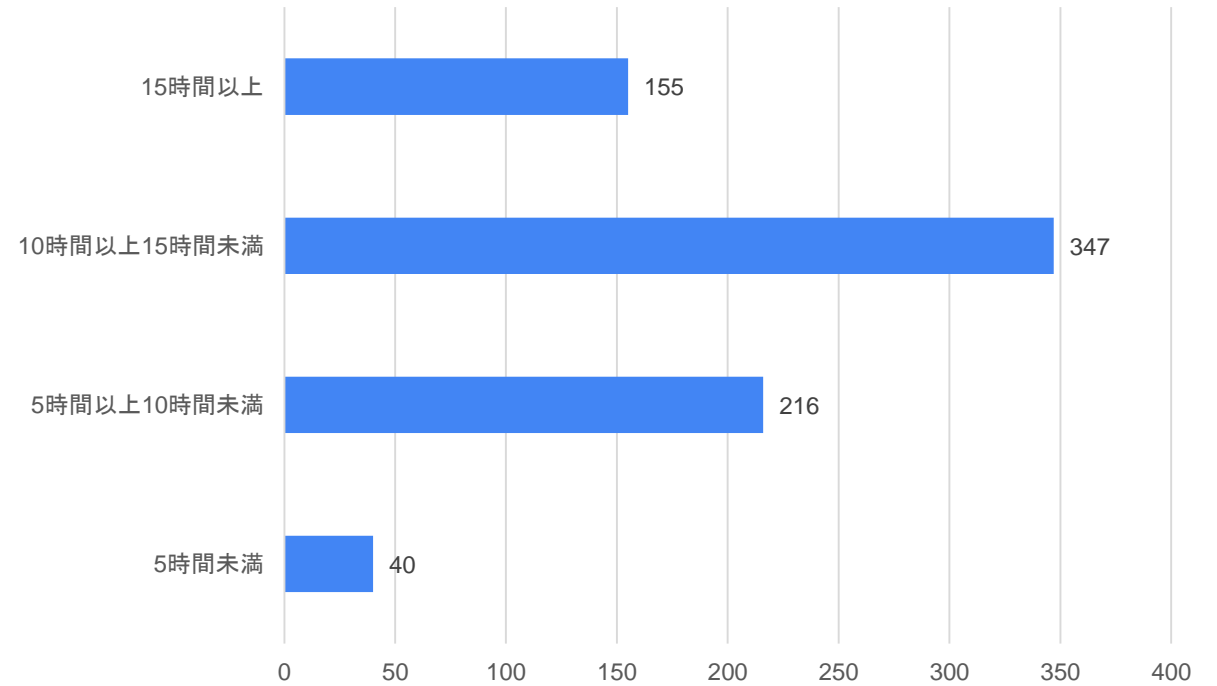
有効回答数 811

平日の自由時間



平日は、自由時間が4～6時間である人が多かった。また、それ以上の人も多くいた。

休日の自由時間

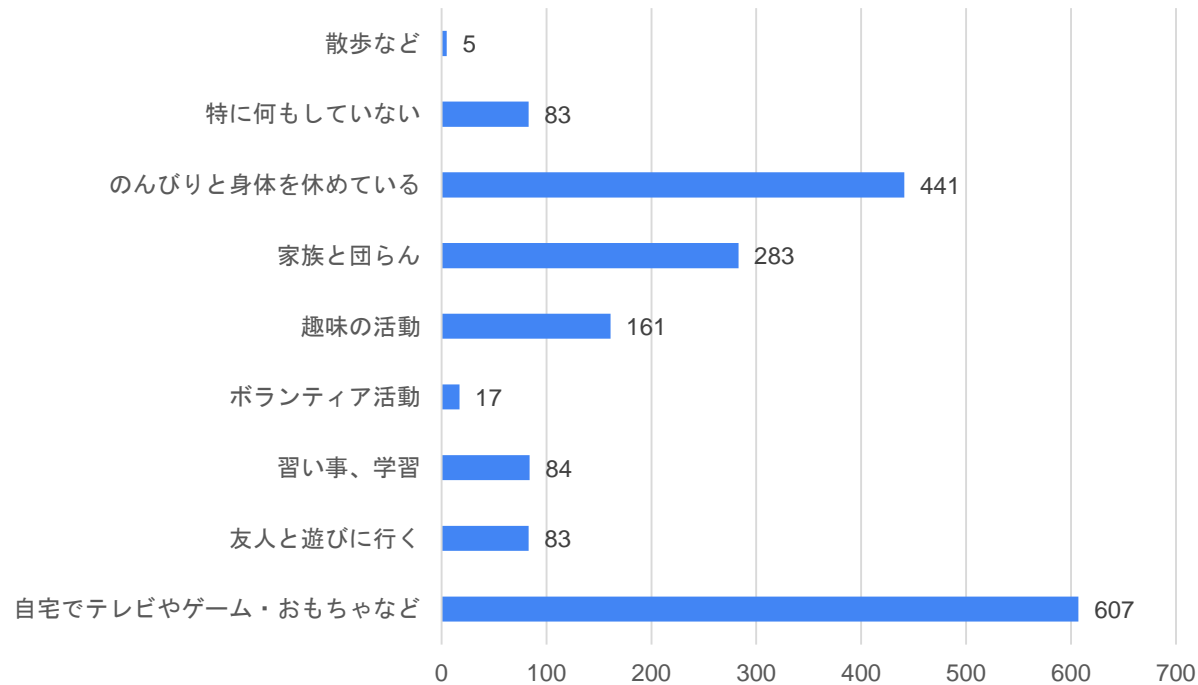


休日は、自由時間が10～15時間である人が多かった。また、15時間以上の人も多くいた。

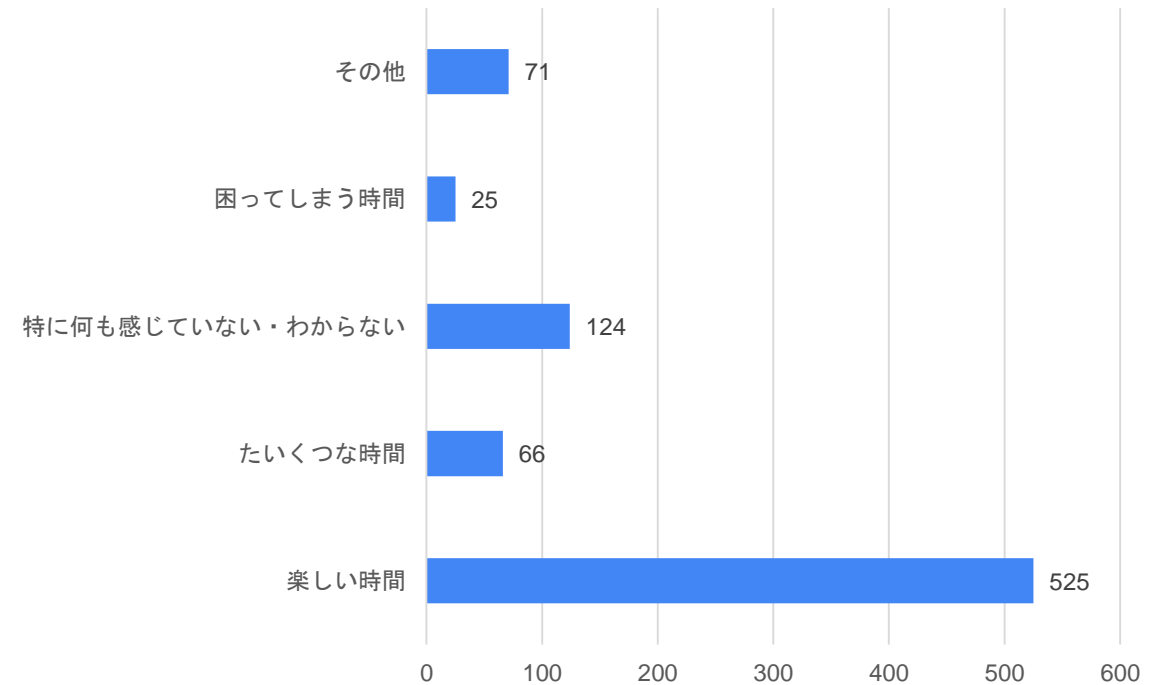
自由時間2

有効回答数 811

自由時間の過ごし方



自由時間に対する感情



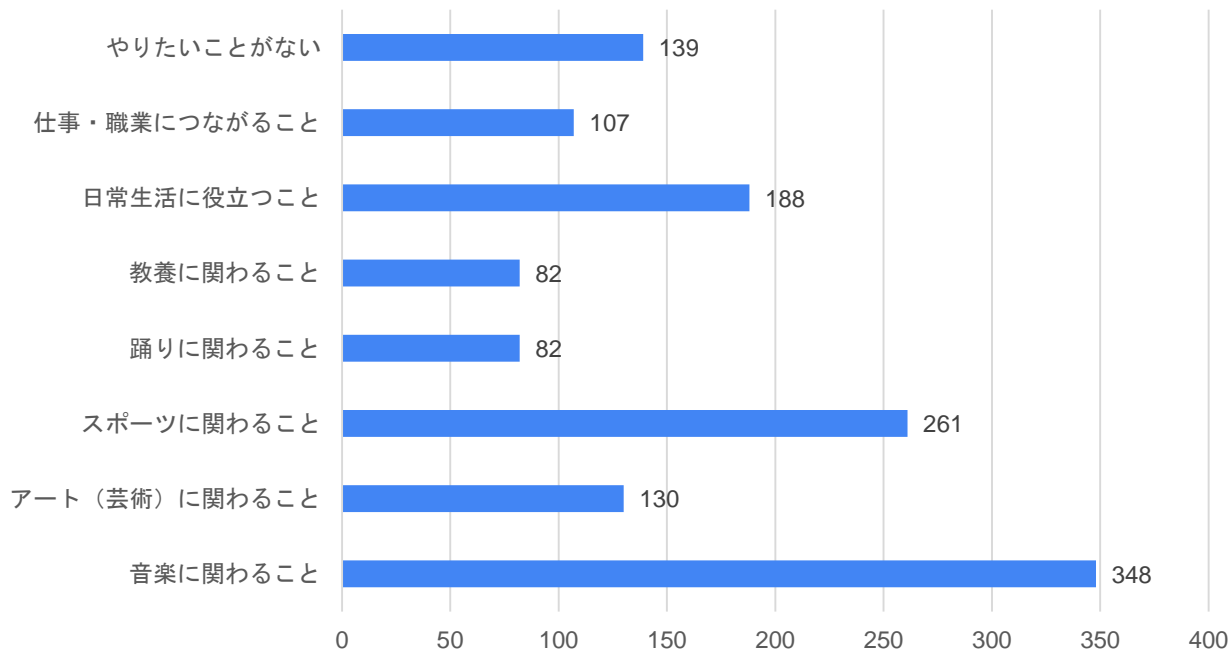
テレビやゲーム、おもちゃで自由時間を過ごす人が多かった。他方、趣味の活動は18%にすぎず、学習やボランティア活動と答えた回答者も少なかった。

自由時間に対して楽しいイメージをもっている回答者が多数だった。

自由時間にやってみたいこと

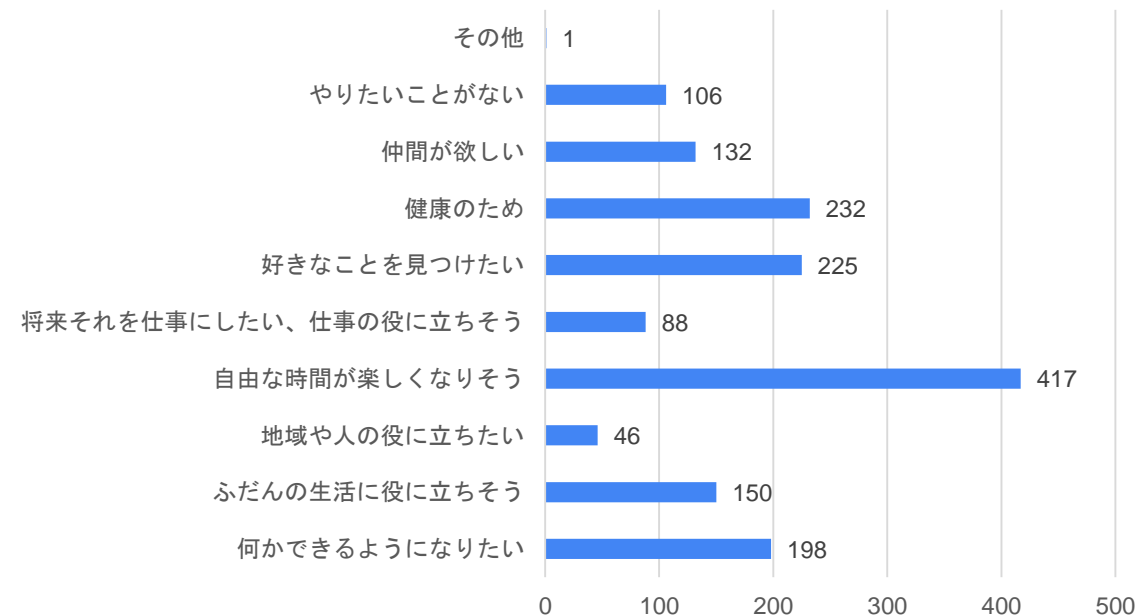
有効回答数 811

自由時間を使った活動のうち、やってみたいと思うもの、もっとやりたいと思うもの



音楽やスポーツをやりたい回答者が多かった。
他方、やりたいことがないという回答者も17%に達した。

自由時間を使った活動をやってみたい理由

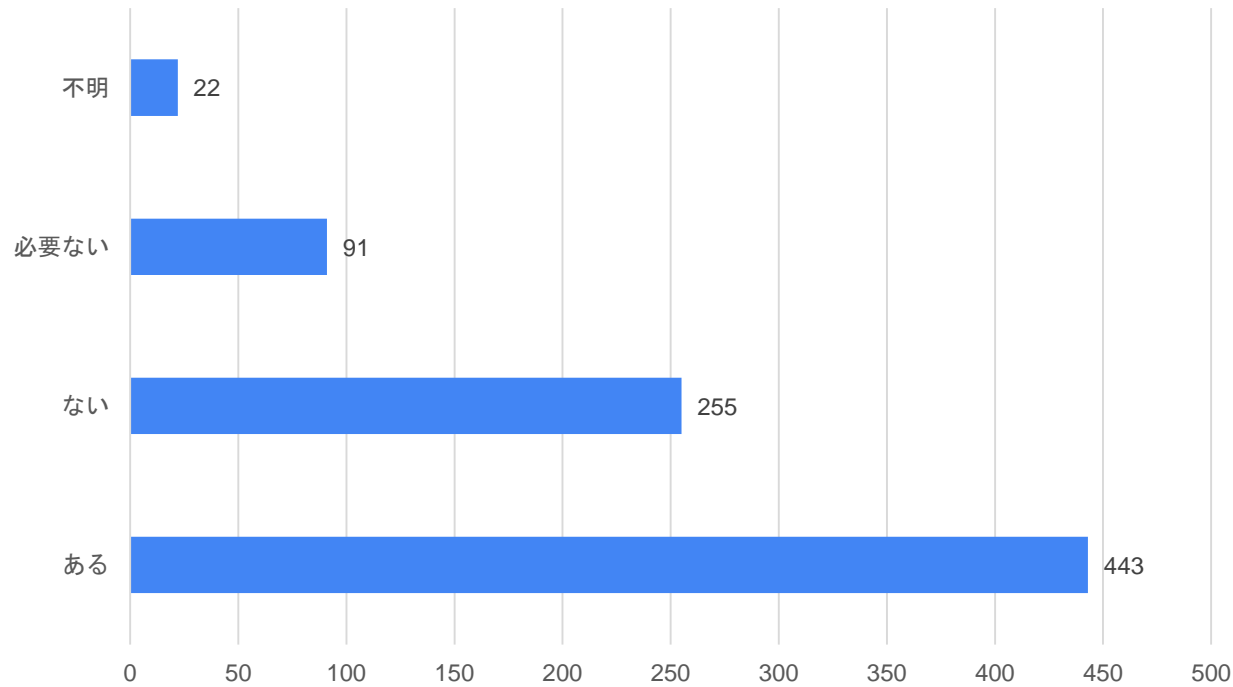


自由時間を好きなことをして楽しく過ごしたいという回答が多かった。

情報

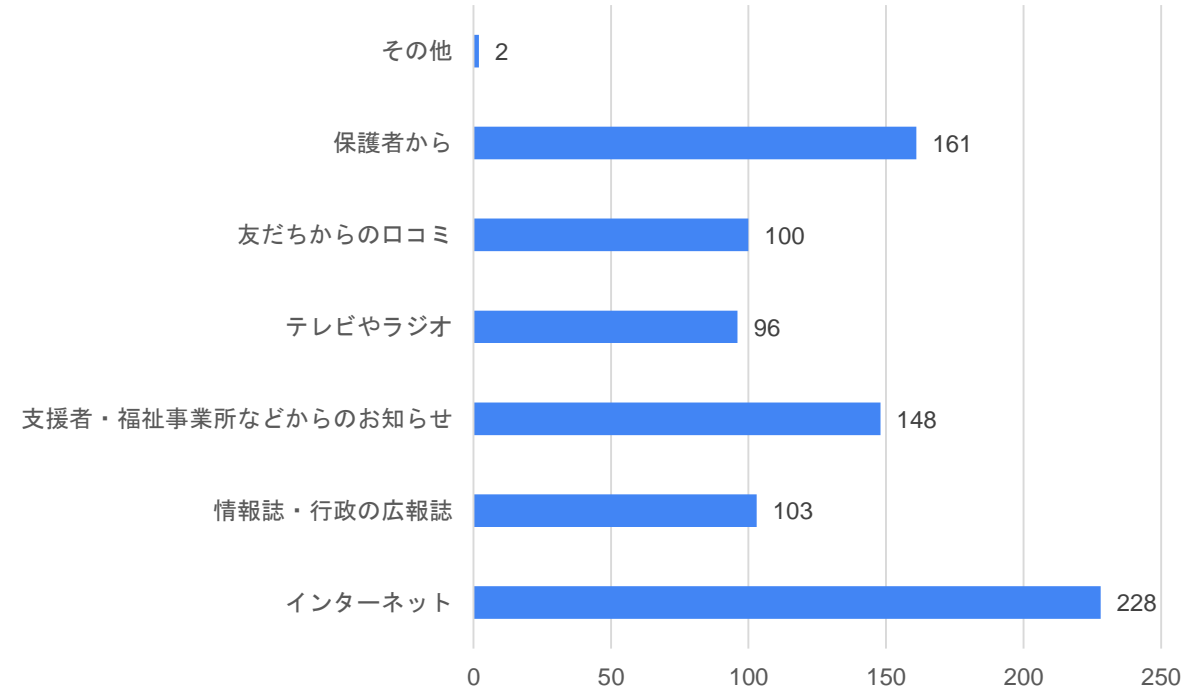
有効回答数 811

自由時間を使った活動の情報



自由時間を使った活動についての情報があるとした回答者が半数以上いた。

自由時間を使った活動の情報入手

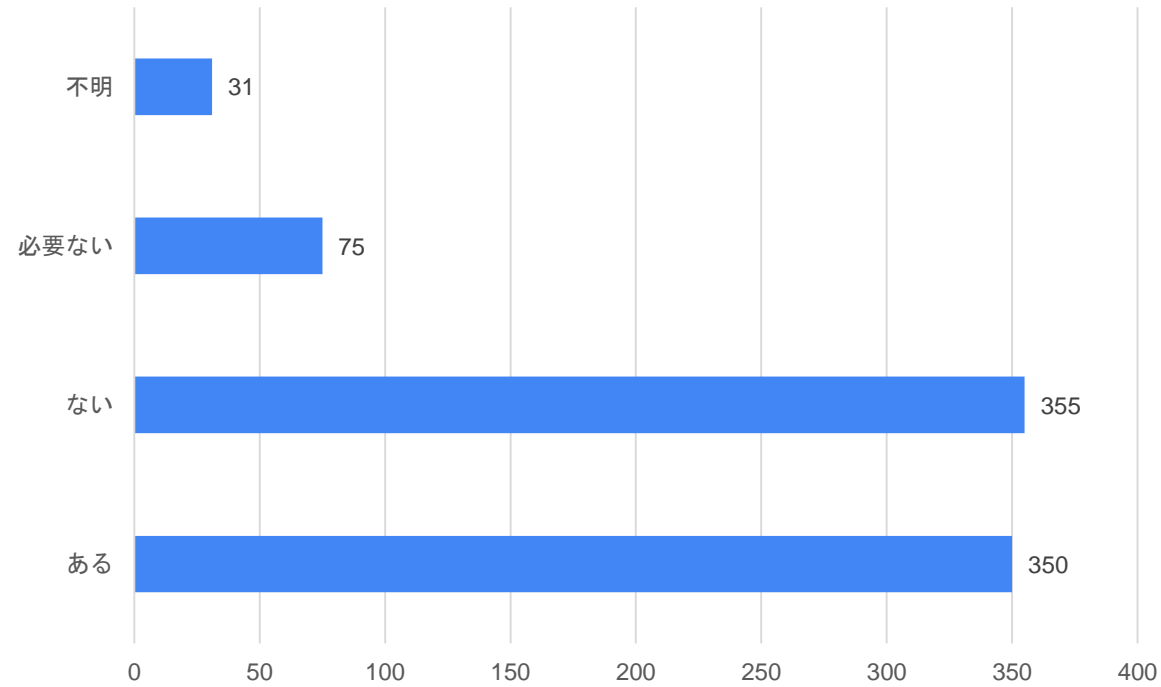


情報の入手経路は、インターネットと口コミが有力という結果だった。

場所

有効回答数 811

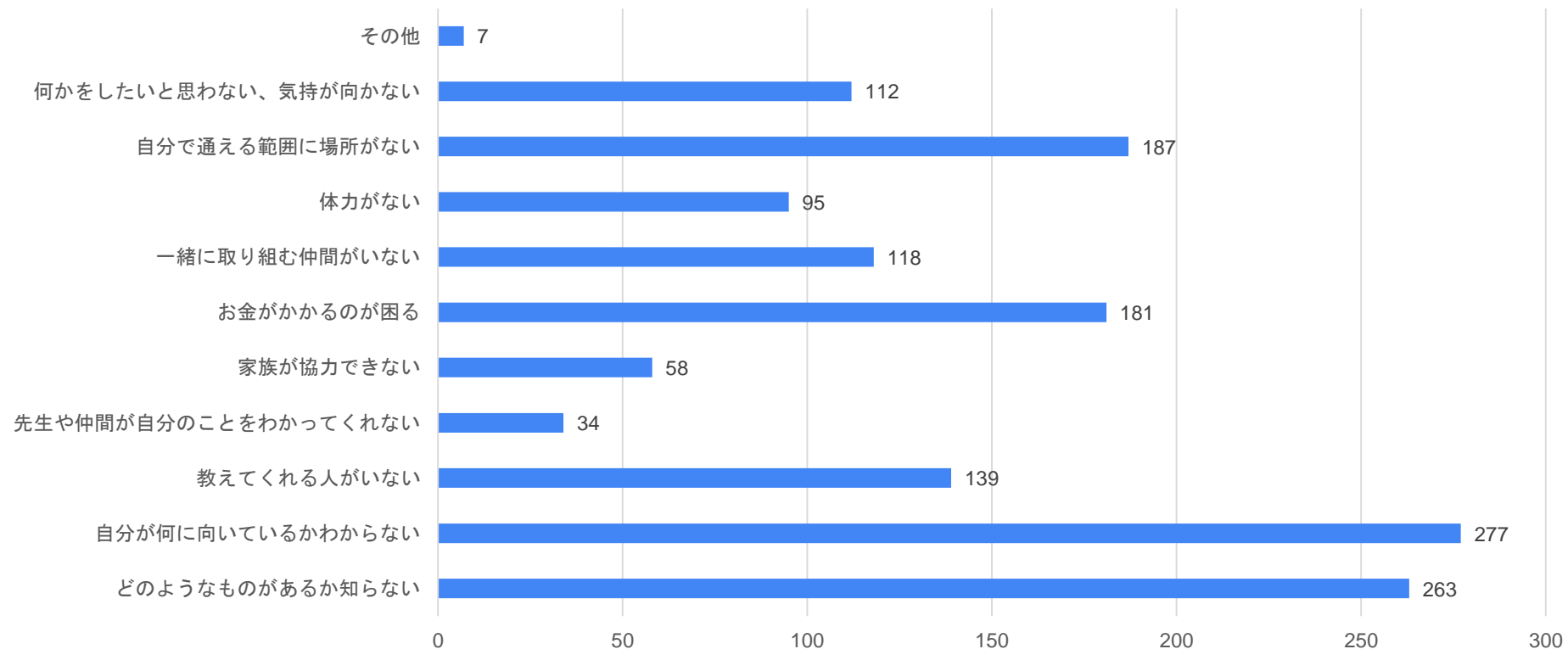
自由時間を使った活動の機会や場所



自由時間を使った活動の機会や場所については、「ある」と答えた人と「ない」と答えた人が拮抗していた。

活動に至るまでの困難

自由時間を使った活動に至るまでの困難

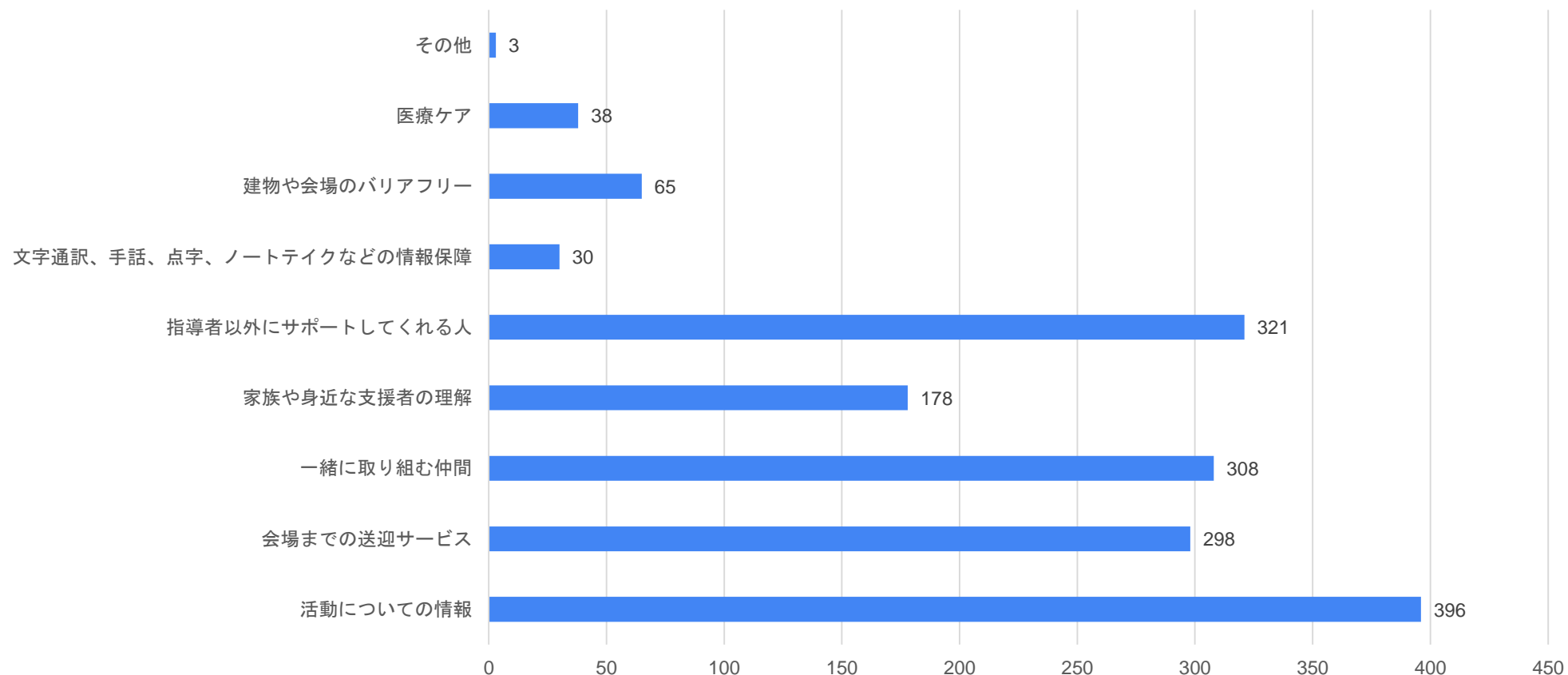


自分が何に向いているかわからない、どのような活動があるかわからない、といったことが困難になっている回答者が多かった。また、地理的条件や経済的条件、支援者や仲間の問題など、困難の中味は多岐にわたった。

必要なサービス

有効回答数 811

自由時間を使った活動をするために必要なサービス

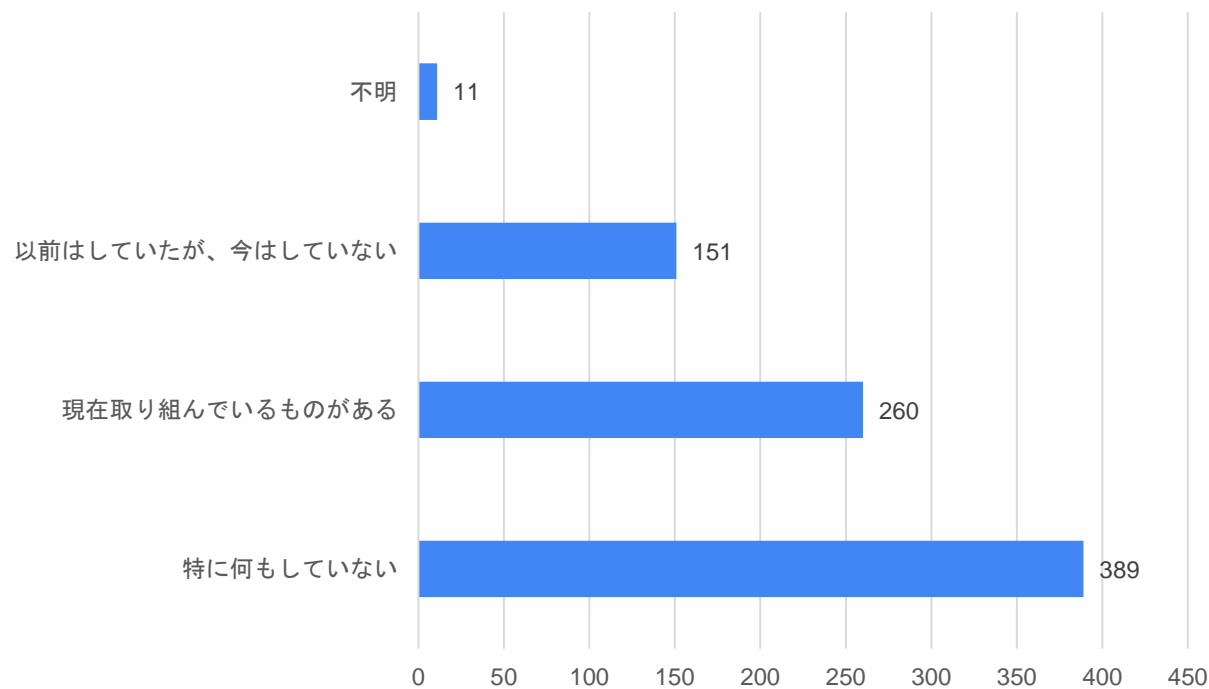


情報、支援者や仲間、送迎サービスを必要とする人が多かった。

自由時間を使った活動 1

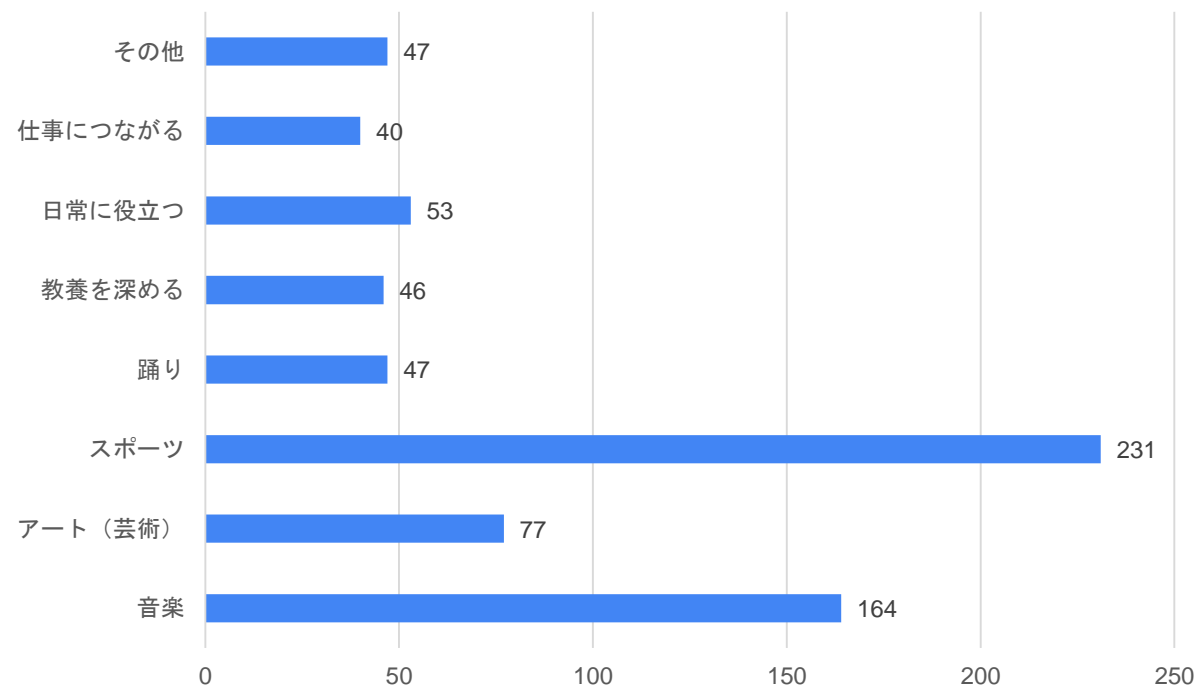
有効回答数 811

自由時間を使った活動の経験



有効回答数 411

自由時間を使った活動の内容

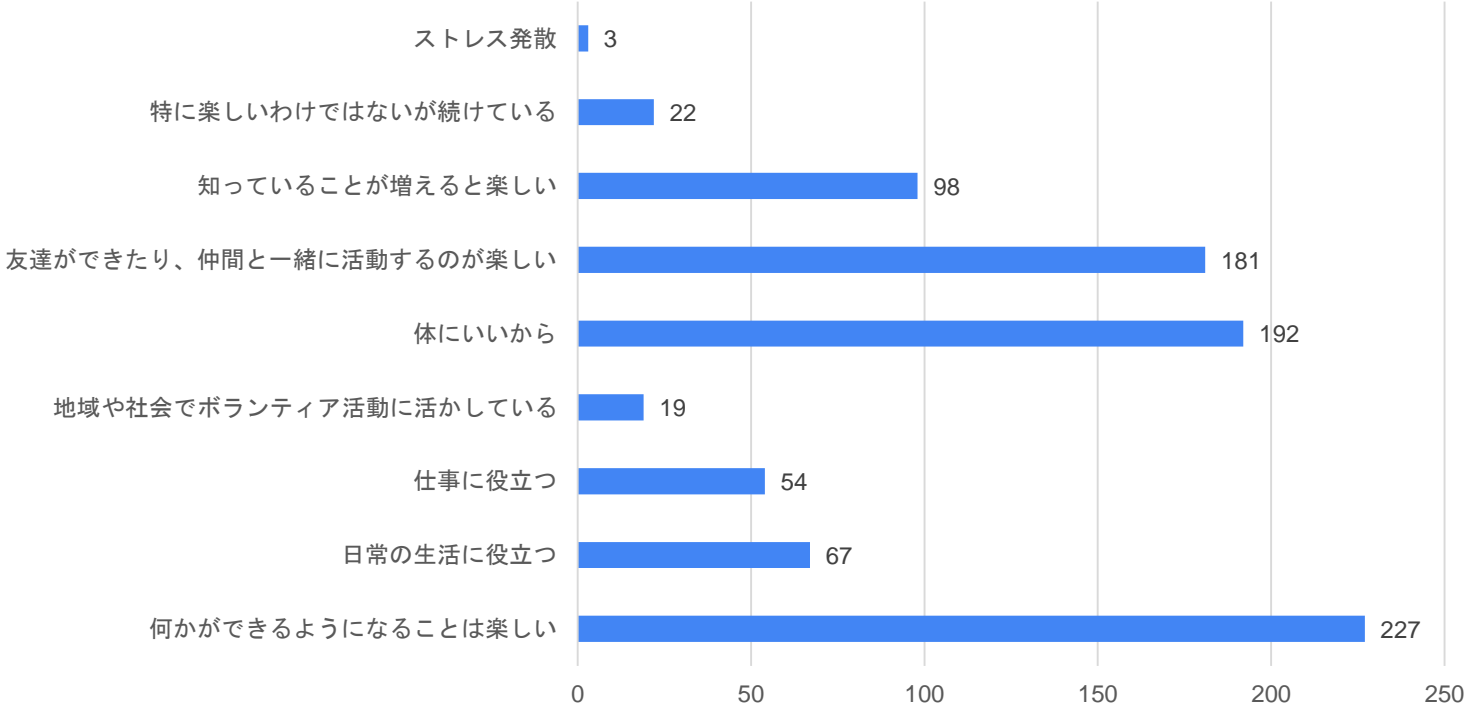


自由時間を使った活動を現在している人が回答者の1/3、自由時間に何もしていない人が全体の半数近くに達した。

自由時間ではスポーツや音楽をする回答者が多かった。

自由時間を使った活動 2

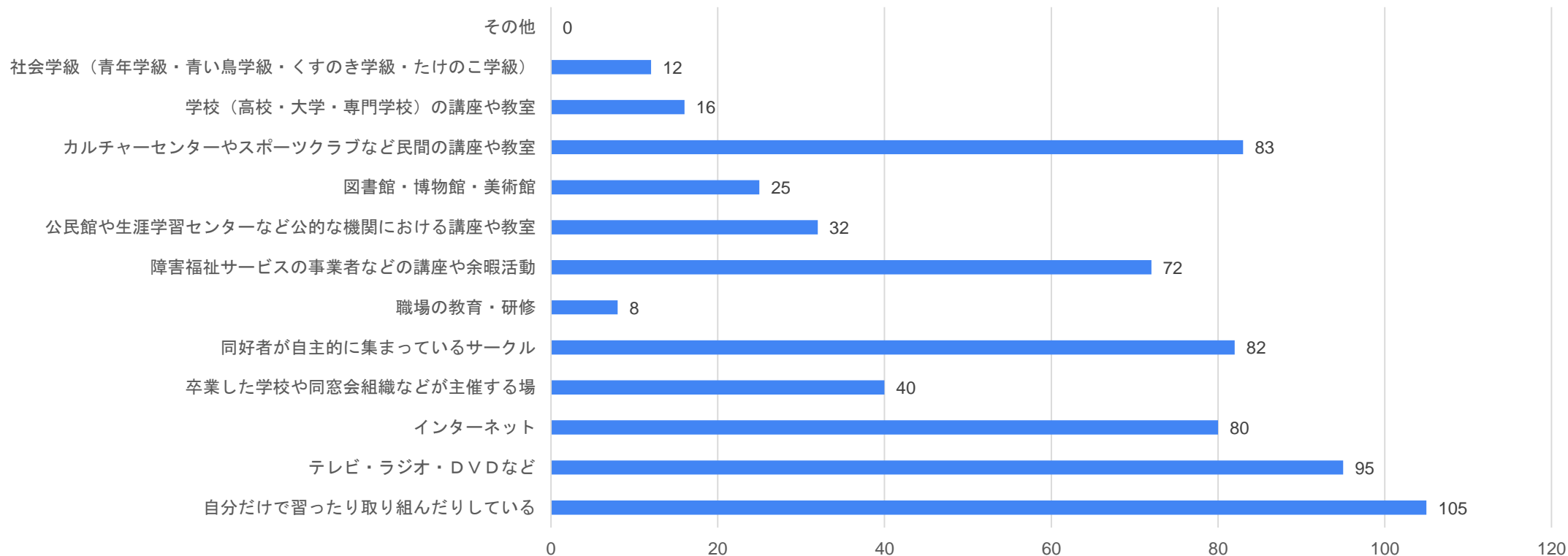
自由時間を使った活動の動機



楽しみや健康を求めて自由時間を使った活動をする回答者が多かった。

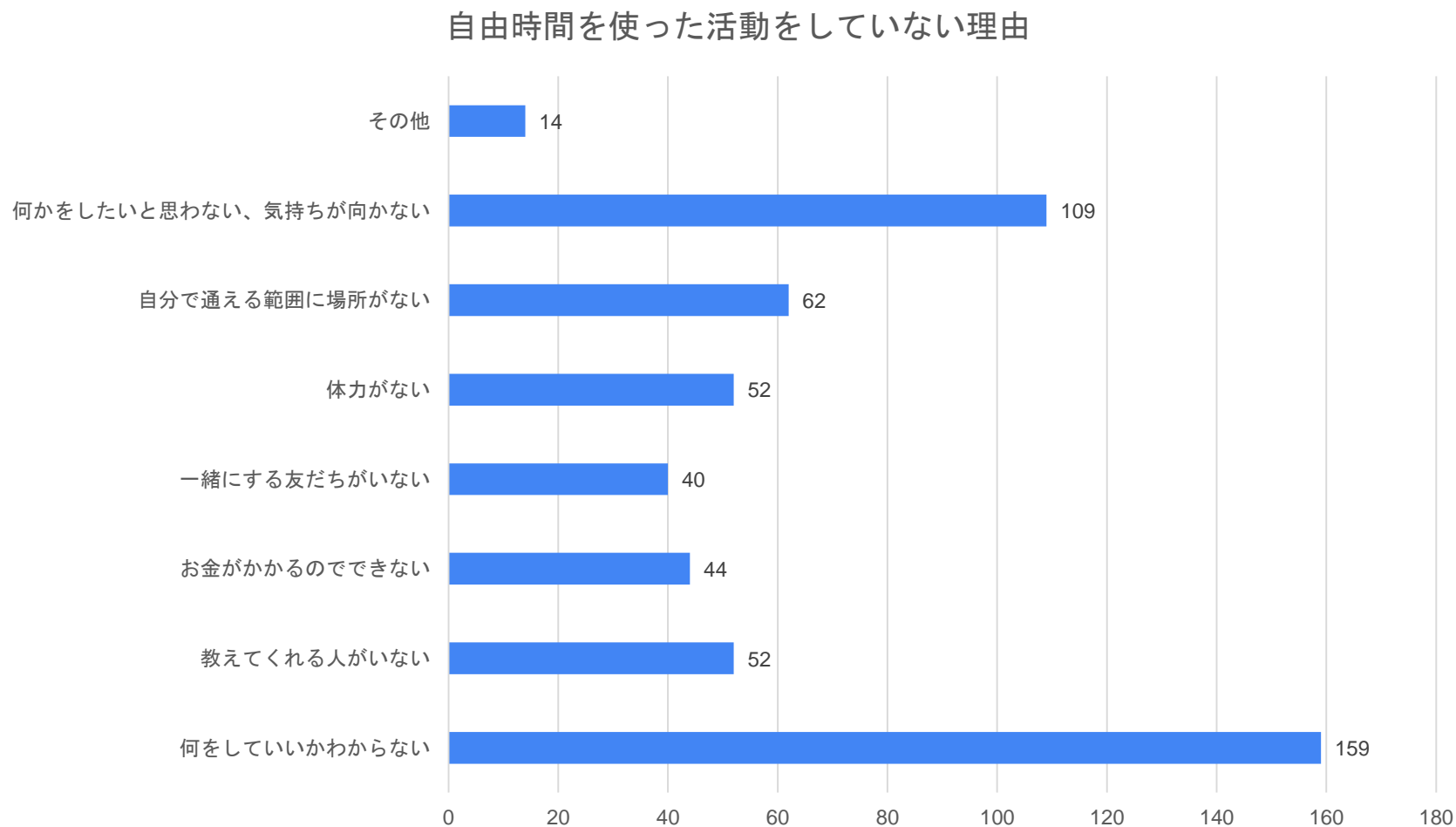
自由時間を使った活動3

自由時間を使った活動の場所



自学自習をする回答者が多く、民間の講座や教室、自主的なサークルに参加する人もめだった。

自由時間を使った活動をしらない理由

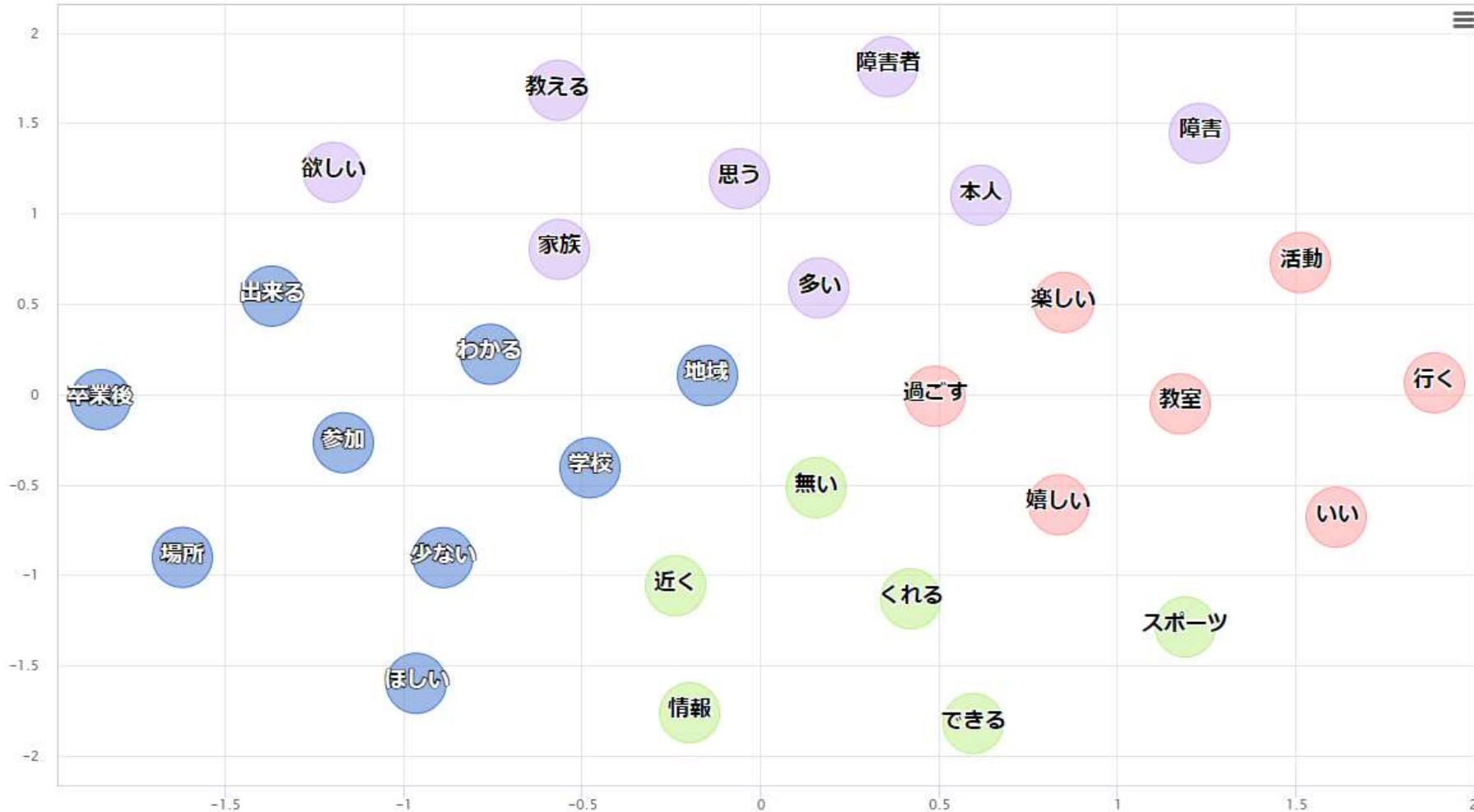


何をしたいかわからない回答者が多く、また気持ちが向かない回答者もめだった。

自由回答記述のテキストマイニング分析①

2次元マップ

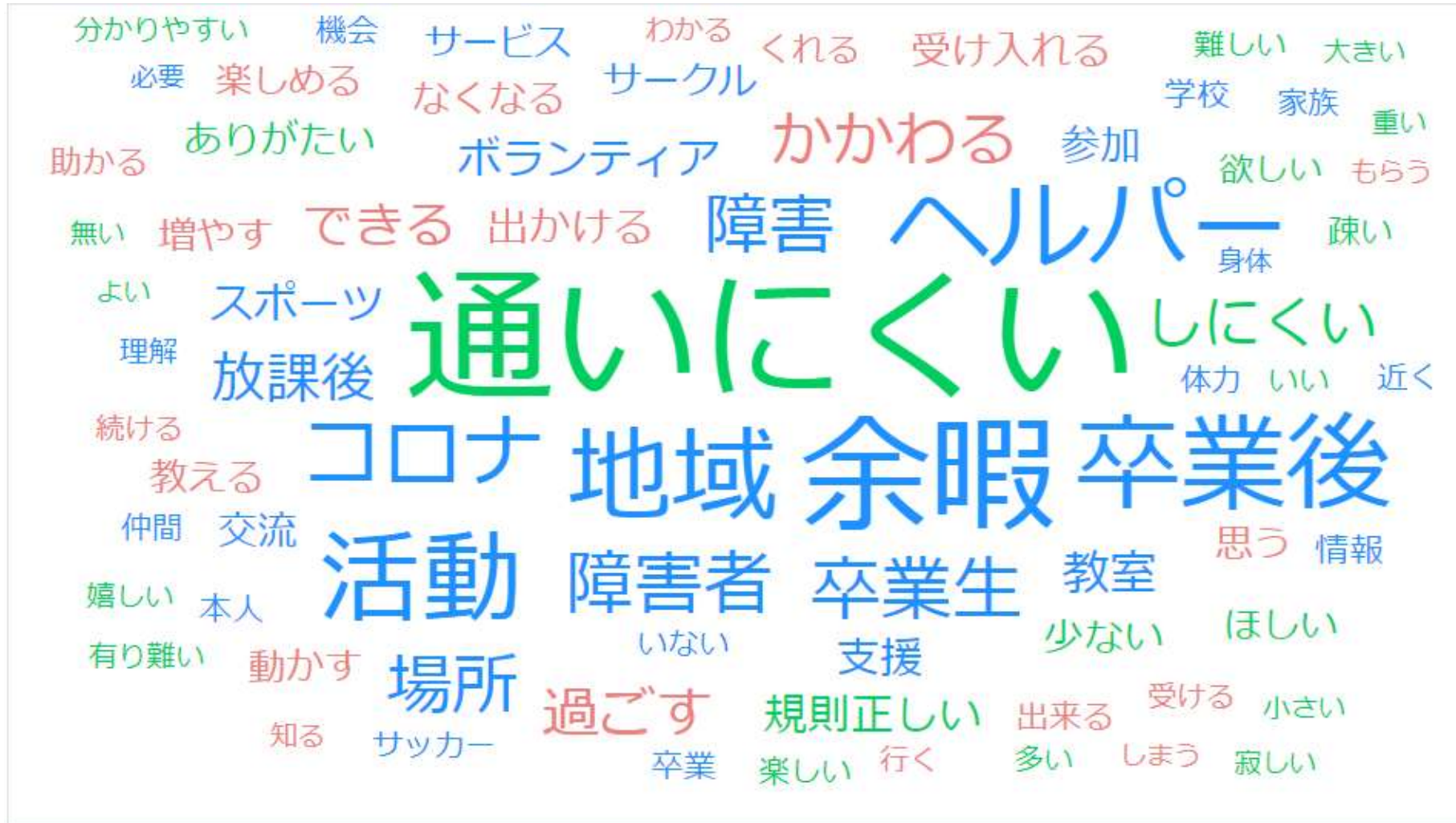
文章中での出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置されています。距離が近い単語はグループにまとめ、色分けしています。【2次元マップの詳細説明】



学校を卒業してからの自宅や地域での取り組みについて意見・希望があればお書きください。

株式会社ユーザーローカルのAIテキストマイニングツールを使用。

自由回答記述のテキストマイニング分析①



学校を卒業してからの自宅や地域での取り組みについて意見・希望があればお書きください。

株式会社ユーザーローカルのAIテキストマイニングツールを使用。

クロス集計 1 (療育手帳Aの回答者に着目して)

	通える範囲に活動場所がある	通える範囲に活動場所がない
非重度知的障害者	494**	20**
重度知的障害者	255**	42**

* p<.05 **<.01

p=.000

クラメールV=.186

障害が重い人は、活動場所までの交通や支援者、指導者についての障壁が高くなる。

	指導者ニーズなし	指導者ニーズあり
非重度知的障害者	495**	19**
重度知的障害者	264**	33**

* p<.05 **<.01

p=.000

クラメールV=.146

	支援者ニーズなし	支援者ニーズあり
非重度知的障害者	374**	140**
重度知的障害者	116**	181**

* p<.05 **<.01

p=.000

クラメールV=.332

クロス集計 2 (療育手帳Aの回答者に着目して)

	どのような活動があるか知っている	どのような活動があるか知らない
非重度知的障害者	373**	141**
重度知的障害者	175**	122**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.140

	活動情報サービスのニーズなし	活動情報サービスのニーズあり
非重度知的障害者	279*	235*
重度知的障害者	136*	161*

* p<.05 **<.01 p=.020 クラメールV=.082

	趣味なし	趣味あり
非重度知的障害者	396**	118**
重度知的障害者	254**	43**

* p<.05 **<.01 p=.004 クラメールV=.102

障害が重い人は、活動情報を積極的に得ようとしているが、実際の活動に至らない場合も多い。

クロス集計3（療育手帳B2の回答者に着目して）

	自由時間にテレビやゲームをしない	自由時間にはテレビやゲームをする
非軽度知的障害者	158*	417*
軽度知的障害者	46*	190*

* p<.05 **<.01

p=.017

クラメールV=.084

	やりたいことある	やりたいことない
非軽度知的障害者	511*	64*
軽度知的障害者	194*	42*

* p<.05 **<.01

p=.011

クラメールV=.090

障害が軽い人は、自由時間にテレビやゲームをして過ごす人が多く、やりたい活動がないことにつまずいている場合が多い。

クロス集計4（企業就労者に着目して）

	活動情報なし	活動情報あり
非企業就労	289*	318*
企業就労	79*	125*

* p<.05 **<.01

p=.027

クラメールV=.077

	活動機会なし	活動機会あり
非企業就労	363**	244**
企業就労	98**	106**

* p<.05 **<.01

p=.011

クラメールV=.090

企業就労している人は、活動情報にも活動機会にも恵まれている傾向がある。

クロス集計5（現在活動している回答者に着目して）

	現在取り組んでいる活動がない	現在取り組んでいる活動がある
自由時間は楽しくない	219**	67**
自由時間は楽しい	332**	193**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.137

	現在取り組んでいる活動がない	現在取り組んでいる活動がある
非重度知的障害者	349	165
重度知的障害者	202	95

* p<.05 **<.01 p=.973 クラメールV=.001

現在、自由時間に取り組んでいる活動がある人が、自由時間をより楽しんでいる。一方、障害の重さと、自由時間に取り組んでいる活動の有無とは関連しない。同様に、就労形態や居住地も、自由時間に取り組んでいる活動の有無と関連しなかった。

クロス集計（活動の意欲と実際の活動の関係）

	自由時間の活動への意欲が高い		
	活動高ニーズ群	積極的活動群	
現在、自由時間に取り組んでいる活動がない	453名	246名	現在、自由時間に取り組んでいる活動がある
	停滞群 98名	消極的活動群 14名	
	自由時間の活動への意欲が低い		

活動意欲の高低と、現在取り組んでいる活動の有無とをクロスさせ、4象限をつくったところ、意欲は高いが活動に取り組んでいない層の人数が、全体の半数に達した。

調査主体

兵庫県学校卒業後の障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアム

ワーキンググループ

吉川史浩（エコール神戸）
佐藤知子（神戸大学附属特別支援学校）
角野陽介（兵庫県教育委員会）
小池宏尚（兵庫県教育委員会）
津田英二（神戸大学人間発達環境学研究科）
多田千景（神戸大学コーディネイター）
藤田雅子（神戸大学コーディネイター）

集計・分析

津田英二（神戸大学人間発達環境学研究科）
多田千景（神戸大学コーディネイター）
藤田雅子（神戸大学コーディネイター）